



Kundo Koyama

小山薫堂

1964年6月23日 天草市生まれ。
放送作家として「料理の鉄人」や「THE 世界遺産」などを手掛ける。その一方で、映画脚本家としても、初脚本の「おくりびと」が米アカデミー賞外国語映画賞を獲得するなど高い評価を受けている

当たり前が幸せ だと感じて欲しい

る（サプライズ）企画ではなく、熊本の人

「くまもとサプライズ」の提案者・小山薫堂さんに「熊本の未来」には何が必要なのかを聞いてきました

く まもとサプライズは、新幹線開業で熊本にきた人たちを驚かせ

ながるのではないかと考えています。

僕

は、生まれ変わるならシャンパンを作る人になりたいんです。

おめでたいときに、シャンパンで乾杯するようないきなりありますよね？

そんな小さな幸せを演出する人になりたいんです。例えば、天使みたいに、陰に隠れながら、いろんな人生にちよつとしたずらをして、人と人を巡り合わせたい。そして幸せになった人たちにこつそり見るのがうれしいですね（笑）くまもとサプライズでも、僕の役割は、皆さんの背中をちよつと押してあげるだけだと思っています。それをきつかけに、熊本の魅力に気付いた人が動いて欲しいですね。

僕は幸せを運ぶ 天使になりたい

そして、地域の人たちの熱き思いが、熊本を変えま

なんです。それが「当たり前前の幸せ」です。

県民の皆さんに、日常生活の中で「当たり前前の幸せ」を見つけていって欲しいと思います。皆さんが「当たり前」を再認識することがサプライズになり、県外の人への「おもてなし」につ

つながると思っていますから。

「新幹線開通」をきっかけに「熊本の魅力を再発見」してほしいと賛同した県内の広報担当者が集まり、取材や写真撮影を行い、みんなで言葉を選んで作り上げた合同企画です。私たちは、取材に一喜一憂しながら2人の思いを形にしました。それは、私たちにとってすべてが「サプライズ」でした。

2人が語ってくれた熊本の魅力とは、水や自然などの熊本に住む私たちにとつて当たり前のものでした。しかし、それは日常生活の中に当たり前に浸透していて、その価値になかなか気付くことができません。

「当たり前が幸せ」と小山さん。「熊本の当たり前が他県の人から見ると、驚くこと」とスザンヌさん。

小山さんは「隣町にも、こんな良いところがあるんですよーって褒めあえたら熊本はもっと素晴らしい県になる」と話しました。熊本の良さを見つけたら、日本が新幹線でつながっていくように、自分のことだけでなく、互いに手をつなぐ。たった一人の思いや行動が連鎖し、そこに共感が生まれる。今回の合同企画が、そんなきっかけになればと思います。

おもてなしには忘れてはならない笑顔添えて、熊本にサプライズを起こしましょう。